

第31回

うつのみやこども賞だより

平成26年度 2回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間が一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『焼き上がり5分前！』

星はいり／著（ポプラ社）



～読んだ本の感想より～

- 私はコックが夢です。こんな6年生がメニューを作れるのなら、私もがんばろうと思いました。アイデア満さいで、おもしろかったです。
 - 3人が「創作パン大賞」に向けてドンドン、アイデアを考えて、1つのパンができあがっていくのがよかったです。
 - いろいろな困難をのりこえて、パン作りを続けるめぐるたちの姿が印象に残った。
 - おいしそうなおパンを食べてみたくなった。めぐるたちの考えたアイデアがすごいと思いました。
 - おじさんはずるいなと思いました。
- 創作パン大賞に出すためにがんばっているすがたが心にのこっています。

『石を抱くエイリアン』 濱野京子／著（偕成社）

- 言葉使いやセリフなどがおもしろく、友情などが深まっていると思いました。最後にじしんやつ波がおこりドキドキしました。
- 大しん災があつてからの市子の気持ちがしん災がおこる前と変化してたりして、ドキッとしました。
- 最後、希望という言葉があまり好きではなかったのに、前向きになって辞書を買うところが印象に残った。
- よしおがくれた石をにぎったりするシーンが印象強かった。

『白瑠璃の輝き』 国元アルカ／著（国土社）

- 拓の鬼に対する思いが強く心に残った。瑠輝の転校による拓のつらい気持ちが伝わる。
- たぐの心がどんどん変わっていく所が良かった。
- 瑠輝のかいた白瑠璃の碗のような絵をわたしもかいてみたいなと思いました。同じ白瑠璃の碗でも輝やいているものと輝やいていないもので変わってくるのだなとふしぎに思いました。
- いくらいやな不良でも、いい子にもどれるんだなあと思いました。明彦も拓みたいになってほしいなと思った。

『ゆいはぼくのおねえちゃん』

朝比奈容子／著（ポプラ社）

- 自分がヒロトみたいになったらきつとすごいいやな気持ちになるけど、それをのりこえていくところがすごいな—と思いました。
- ヒロトがかいた絵にゆいがつけくわえて全員の顔が入った絵が表さつになったときは、とてもうれしかったです。ヒロトとゆいが、姉弟になったしゅんかんみたいでした。
- ヒロトからのゆいへの視線がだんだん変わってくるところがおもしろかった。
- ゆいはおばあちゃんを心から好きなんだなと思いました。